

担任の先生へ

言葉の発達に遅れのある子どもについて

◎言葉の遅れとは

「言葉が遅れている」と、保護者の方が相談に来られる子どもたちがいます。こうした子どもたちは、次のような話し方の特徴があります。

- 言える言葉、わかる言葉の数が少ない。
- 「あれ、これ、それ」など指示語が多い。
- 単語の羅列だけで文としてつなげられない。
- 意味の伝わりにくい話し方をします。
- 文法的におかしい話し方をします。
- 知っている言葉の応用力が十分ではない。

あれ、あれが、パーンとなっ
て、それで、ドーンと・・・



また、次のような行動の特徴も見られます。

- 場に応じた行動がとれない。
⇒ 周囲の状況を考えずに勝手な行動をしてしまい、親や先生を困らせることがあります。
- 気持ちのつながりが薄い。
⇒ 人のすることあまり興味を示さず、見よう見まねで覚えようとする気持ちが少ない。
- 友だちと遊べない。
⇒ 一人で遊んでいることが多く、無理に仲間に入れても遊び方が分からない。



「ことば発達の遅れ」と言っても、その背景は様々です。全体的な発達の遅れ、情緒的な課題、発達の偏りによるものなどです。しかし、その全てに共通して言えることは、「ことば」だけを取り出して指導することはできないということです。

「ことばの発達」は、全体的な発達の一部だからです。「からだ・こころ・ことば」を一緒に考え、全体発達を促すことが必要です。



◎担任の先生にお願いしたい配慮事項

① 話したいという意欲を高める。

- 一緒に経験したことを具体的に話しかけてあげてください。
- 朝の会や帰りの会でのスピーチは、話す順序やポイントを示すとわかりやすくなり、意欲が高まります。



② わかりやすく話しかける。

- 指示は、なるべく短い言葉でお願いします。
- 長い話をするときは、黒板にキーワードをメモしてあげてください。
- 指示を理解していないときは、わかりやすい平易な言葉で言い換えてあげてください。
- 身振りをまじえて話しかけると、理解しやすい子もいます。
- 絵・写真・文字など視覚的な手がかりは、ことばの理解を助けます。



◎ことばの教室では

教室では、次のような指導をしています。

基本的には、ことばの教室では、教科の補充は行いません。ただ、学年に応じて、必要な課題として、教科書の先取り学習をすることはあります。大まかな指導としては以下のような内容を行っていきます。

ことばの発達を促すために

- 体を動かしたり、ゲームをしたりして、おしゃべりすることの楽しさ、伝えたいという意欲を高める指導。
- 季節の行事に合わせた活動や読み聞かせを取り入れて、知識や語彙を広げる指導。
- しりとりや連想ゲームなどを通して、言葉を引き出しやすくする指導。
- 聞く・話す・読む・書くといった言語学習を通して、ことばを豊かにしたり、ことばの使い方を身に付けたりする指導。

